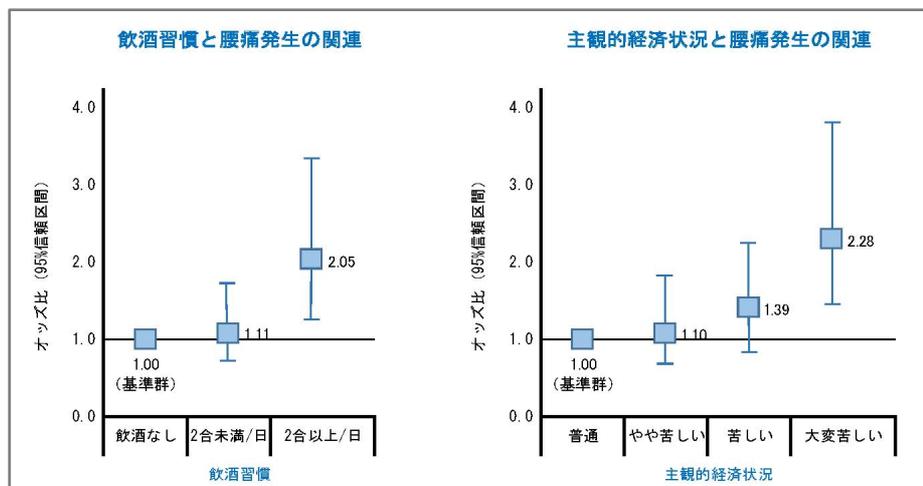


東日本大震災被災者における震災後4年間の自覚症状有訴者率変化と関連因子の検討

東日本大震災被災者における震災後4年間の自覚症状有訴者率変化と関連因子の検討
2017年 厚生指標 発表

震災後4年間で腰痛と尿失禁が増加

大規模自然災害後には様々な健康問題が増加することが報告されています。我々の先行研究により東日本大震災後には様々な自覚症状が増加することを報告しましたが、その長期経過は明らかではありませんでした。本研究は、東日本大震災被災者における震災後4年間の自覚症状有訴者率の変化と、有訴者率の増加が見られる自覚症状の新規発生に關与する因子を検証したもので、「いらいらしやすい」や「めまい」は減少する一方（いらいら：11.8%→8.7%、めまい：7.7%→5.4%）、「腰痛」や「尿失禁（尿漏れ）」は有意に増加しました（腰痛：22.3%→28.7%、尿失禁：3.2%→5.4%）。また、腰痛の新規発生には、多量飲酒習慣と経済困窮が關与していました（図）。



研究のデータについて

本研究は、宮城県石巻市雄勝・牡鹿・網地島地区および仙台市若林区の18歳以上住民を対象とした被災者健康調査のデータを使用しました。2011年6～12月に実施した第1期調査に参加し、2015年6～7月に実施した第9期調査にも参加した1,239名を分析の対象としました。

自覚症状について

自覚症状の項目は国民生活基礎調査に準拠し、ここ数日における病気やけがなどで体の具合が悪いところに当てはまるものすべてを選択するよう依頼しました。選択肢として挙げた症状は以下のとおりです。「いらいらしやすい」「頭痛」「めまい」「動悸」「息切れ」「せきやたんが出る」「ゼイゼイする」「下痢」「便秘」「食欲不振」「腹痛・胃痛」「痔による痛み・出血など」「歯が痛い」「歯ぐきのはれ・出血」「かみにくい」「かゆみ（湿疹・水虫など）」「腰痛」「手足の関節が痛む」「足のむくみやだるさ」「尿失禁（尿が漏れる）」「尿が出にくい・排尿時痛い」「月経不順・月経痛」「切り傷・やけどなどのけが」「骨折・ねんざ・脱きゅう」。

増加した自覚症状のリスク要因について

第1期から第9期にかけて有訴者率が有意に増加した自覚症状について、新規発生と関連する因子を分析しています。具体的には性別、年齢、飲酒、喫煙、歩行時間、震災前からの就労変化、主観的経済状況、居住環境、社会的孤立、心理的苦痛、睡眠障害といった要因についてで、多変量解析による検討を行いました。

研究の特徴と限界について

本研究は、東日本大震災後の自覚症状の長期的な推移と関連因子を検討した初めての研究です。これまでに同一地域の情報を災害後約5年にわたって調査し続けている研究は少なく、次なる大規模自然災害が発生した際に中長期的にどのような支援を被災者に対して行うべきかについて重要な示唆が得られるものと考えます。ただし、ランダム抽出した対象者ではないこと、客観的評価指標がないこと等の限界もあります。